

開催 : 2018年3月7日

申請者	湘南慶育病院 副院長	堀江 義則
承17 - 0006	内科を受診される方のお酒と健康に関する調査とアルコール健康障害を予防するための簡易介入プログラム開発・効果評価に関する研究	
研究の概要	<p>有害な飲酒者に対する簡易介入の有効性は、2004年にUSPSTF(米国予防医療専門委員会)がBランクで臨床現場での実施を推奨し、また、WHOが2010年に採択した「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」において、具体的な介入施策の一つとして推奨している。しかしながら、過去50年余りわが国のアルコール問題対策は、専らアルコール依存症に対して断酒を唯一の治療目標とする入院治療を専門医療機関で行うことであった。</p> <p>本研究では、</p> <ol style="list-style-type: none">1)医療機関での簡易介入の対象となる患者数の推定のための無記名自記式横断研究、および2)ランダム化比較試験による簡易介入の有用性の検証 を行う。	
判定	承認	※全員承認で一致した。